

教えて!市長、市役所は今なんしょんの?

12月になると市長が議会に1年間やってきたことなどを報告する「行政報告」があります。しかし、すべての人が議会を見ているわけではありません。そこで、市長の空き時間をチェックして突撃。「市長!インタビューさせてください!」突然のことに市長は目を丸くしましたが、快く対応してもらいました。



子どもたちの遊びを止めない

気候変動や住環境に左右されることなく、子どもにはとことん遊び尽くしてほしい。

チャレンジを認め合う風潮へ

市役所の職員も、市民の皆さんも新しいことにどんどんチャレンジしてほしい。互いに認め合い、多様性を強みにすることで、まちはさらに発展します。

子どもたちへの投資 = 高齢者への投資

子どもや子育て世代への投資によって、市内での経済活動や人口が維持され、高齢の方々などに対する持続的な支援に繋がります。



行橋はもっと発展する!

行橋はまだ成長できるポテンシャルを秘めています。企業誘致、インフラ整備もこれから。

旧年をふりかえって

旧年をふりかえっての感想を聞かせてください。

市長 まずは水です。去年の5月に北九州市から水を供給してもらったための協定を締結しました。ここ数年の渇水は深刻で、断水という最悪の事態も覚悟していました。実は眠れない夜もあったんです。渇水は今に始まったことではありませんが、自分の代で決着をつけなければならぬという責任を強く感じていました。それから市制70周年です。もちろん関連イベントそれぞれに思い入れがありますが、記念式典は幅広い市民の皆さんに登場していただきました。

広報 子どもたちの躍動には感動しましたね。

工藤政宏 くだうまさひろ
昭和52年9月生まれ。
令和4年に行橋市長就任(現在1期目)
座右の銘は「理不尽に屈せず大志に生きる」



ウェルビーイングが実感できる行橋に!

新年への意気込み

広報 今年は何期としても最後の年ですが、意気込みをお願いします。

市長 70周年のテーマは「協創」ですが、この言葉は普遍的なものとして今後も掲げていきます。市長の任期は4年。しかし、まちづくりは永遠です。4年でできることだけではなく、20年、30年後にコミットできることも取り組まなければなりません。バックキャスティング、理想の未来を皆さんと共有して、その未来のために今何をすべきか考え行動する、これがあべき姿だと思います。

広報 具体的に一つ紹介するとしたら。

市長 次のページにもありますが、室内型子どもの遊び場です。「行橋には子どもが遊ぶ場所がない」との声をずっと前から聴いてきました。子どもは遊ぶことが仕事です。これから本格化する気象変動、猛暑や豪雨に左右されることなく、安心して過ごせる遊び場が絶対に必要だと

考えています。

広報 詳細は今後ですので、そのあたりでお願いします。一方で屋外の遊び場はどうでしょう。

市長 屋外の遊び場と言えば公園です。行政主導の画的な公園を見直し、幅広い年代、多様な市民の皆さんが行きたくなる公園づくりを進めるため、全2回の公園ワークショップを開催しています。たくさんの方々に参加していただき、理想の公園と今必要な機能などのご意見を整理していきたいと思っています。



広報 長期的な展望はどうでしょうか。

市長 行橋は、空港や高速道路を含む地勢力や地域資源を活かすことでもっとも発展できる、ポテンシャルを秘めたまちです。例えば、東九州新幹線ルートの話が盛り上がりつつありますが、行橋に駅ができることできないとは、今後の発展に雲泥

と違います。

広報 ありがとうございます。

市長 ありがとうございます。議会に報告する内容は、いわゆる「行政表現」が多くて難しいと思います。次のページでは、その他の内容について皆さんが知りたい「なぜ、それを?」を補足し、まとめてみました。



市長 同感です。BMX、マーチング演奏、10年後のあなたへ贈るメッセージなど、子どもたちによって会場が一体となりました。子どもたちはまちな宝、国の未来です。まちな宝は市民の皆さん。「子や孫のため」という想いが現在の豊かさにつながっています。「過性のイベントではなく、先人に感謝し、未来に繋ぐ節目の「儀式」と捉え、今一度、私たち大人たちの熱量が結束するきっかけにしたいと思っていました。市民の皆さん、そして職員には改めて感謝申し上げます。それからゴミ減量プロジェクトです。地味です

東九州新幹線は、国が1973年に基本計画路線に位置づけ、福岡、大分、宮崎、鹿児島島の4県と北九州市が連携し、整備実現を求める動きが活発化しています。

環境

ゼロカーボンシティ & ワンヘルス推進宣言 ゴミ減量プロジェクト "その1gを削り出せ"



2050年カーボンニュートラル(温室効果ガス実質ゼロ)の実現に向け、現在、地球温暖化対策実行計画を策定中です。また、人と動物の健康、自然の健全性は1つであり、それらを一体的に守っていくワンヘルスを県と連携し、普及活動や推進(イベントでの啓発やパケット避難所に関する計画策定等)に努めています。



8月1日から1年間限定でゴミ袋などの価格を半額とし、スタートしたゴミの減量プロジェクト。毎号広報紙でお知らせをしています。未来の子どものため、全市民による協創が鍵となっています。11月の可燃ゴミ排出量は、およそ1,752トン。昨年度と比較すると約52トン増えました。4月から11月までの累計減少率は、およそ4%弱となっています。

インフラ

NO PARK, NO LIFE これからの公園整備



室内型遊び場と並行して整理を進めているのが屋外型遊び場、いわゆる「都市公園」です。行橋市は他自治体と比較して、都市公園が少ないと言えます。(右参照) 昨年10月に開催したワークショップでは、小学生から70歳までの幅広い年代の方が公園について議論。いただいたご意見は「行橋式都市公園」の整備に反映されます。

THE WORKSHOP みんなでつくる推しの公園

第2回目が開催決定。2/16(日)リブリオ行橋にて14:00からSTART。詳細は二次元バーコードから。

問 都市政策課

小学生以上の方なら誰でも参加OK。もちろん、第1回目に参加してなくても大丈夫です。「推しの公園」を皆さんで話し合い、市に提言をするイベントです。



講師はわたくし、新田新一郎です



教育

社会を生き抜く力 武道・スポーツ振興



2ヵ年計画でタブレット端末や学校ネットワーク機器等の更新をしています。また、社会を生き抜く力を養う企画として、夏休み期間に中学生向け金融講座などを実施しました。その他にも、今年度からスポーツ振興、技術力の向上を図ることを目的とした「スポーツ大会参加選手激励金事業」を開始。オリンピックをはじめとする全国大会、世界大会に出場する皆さんへの支援を行っています。

防災・減災

備蓄品の増量と 消防力の強化



能登半島地震では約11万戸が断水し、避難所でもトイレの水が流れないなどの問題が多発。市では携帯簡易トイレの備蓄を増量。乳幼児やアレルギーを持つ方に対応できる食料なども計画的に増量中です。消防では、車両位置自動表示システムや、消防団(泉・仲津校区)小型ポンプ車の更新計画を進めています。

福祉

みんなでつくる！ 地域共生社会の実現



手話は「手で話し、目で聞く言語」。ろう者の方々にとって重要なコミュニケーションツールである手話を、日本語と同等の言語であるとの理解を広げるため、地域共生社会の実現をめざす「手話言語条例」を制定しました。年齢や障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で相互に支え合う社会の実現をめざします。

産業・経済

食卓と経済の源流 一次産業を守る 食を愛するすべての市民に捧ぐ「ごはんMAP」



広報紙でも度々取り上げている農業、林業、漁業などの一次産業。子どもたちには、いつまでもおいしい地物を食べてほしい。市では新規就農者や担い手への支援、稲童地区は場整備事業の推進や耕作放棄地の解消等に努めています。また、漁港の浚渫、エビ・ガザミの放流やアサリの稚貝育成など、「つくり育てる漁業」回復を推進しています。

「食物を愛するよりも誠実な愛はない」(バーナード・ショー)。「食」に敏感な行橋市民にぴったりの言葉ではないでしょうか。市ではグルメマップ「ゆくはしごはんMAP」を作成。観光客や新たに行橋市民となった方を中心に人気となっています。昨年6月には物価高騰対策として、プレミアム率を30%とした商品券を発行し、地域経済を後押ししました。

子ども・子育て

ついに行橋にも！室内型遊び場 さらなる充実をめざす産後ケア



「行橋には子どもを遊ばせる場所がない！」子育て世代からは必ず挙がる声です。本格化する気候変動に対応するために、令和8年の開設をめざし、室内型子どもの遊び場整備を進めています。詳細は、今後の進捗によって随時お伝えします。

出産後のお母さんやご家族には母乳やミルク、赤ちゃんの発達など悩みが付きもの。そんな不安を少しでも取り除きたい。市の「産後ケア」は、昨年4月から通所型デイサービスも開始。通所、訪問、宿泊から選ぶことができ、専門職のサポートを受けることができます。料金は、11月から今までの半額で利用が可能になりました。